



総合質管理(TQM)部ニュース

2024年11月号(第16号)



今月は、緩和ケア課とがん化学療法課の紹介です

緩和ケア課

緩和ケアでは、全人的な視点(身体的・精神的・社会的・スピリチュアルペイン)から患者さんの苦痛・苦悩を捉えてケアすることが求められます。



スピリチュアルペインって捉えにくいんですか？

スピリチュアルペインとは、これまでの日常では意識されたことのない、自分の存在や自分らしさを脅かされるような事態に直面して初めて現れる苦悩のことを言います。

スピリチュアルペインを理解するためには、以下のような患者さんの言葉をキャッチすることから始まります。

何もする気がしない
早く楽にしてほしい
なんでこんなことに
私の人生は何だったのか

死んだら何にも残らない
誰もわかってくれない
これから私はどうなるのか

人の世話になって迷惑をかけて生きていてもしょうがない
自分の事ができなくなってもう人間じゃない
何の役にも立たない、生きている価値がない

患者さんには、痛みや痛み以外の症状、日常生活動作の支障などの身体的苦痛だけでなく、不安や苛立ちなどの精神的苦痛、仕事や家庭、経済上の問題などの社会的苦痛、人生への問いなどの苦痛があり、その苦悩は複雑で相互に関連しています。

(文責) 緩和ケア認定看護師 新川 恵美

がん化学療法課

がん医療では、遺伝子情報にもとづく個別化治療が行なわれています!! 一部のがん治療では標準的治療として行われています

これまでの医療では、肺がん、大腸がん、乳がんといったがんの種類別に治療や薬が選択されていました。しかし2000年代に入り、がんの原因となっている分子(タンパク質)やそのもととなる遺伝子の解明が進み、この分子や遺伝子などを標的とする「分子標的薬」を使用できるようになってきました。

がんの種類だけでなく遺伝子変異など、がんの特徴に合わせて、一人一人に適した治療を行うことを「個別化治療」と呼び、当院でも「がん遺伝子検査」にもとづき個別化治療を行っています。



がん遺伝子検査の実際
医師が必要と判断した場合に1つまたは少数の遺伝子を調べる(がんの組織、血液、骨髄液等)

- 1) がんの診断確定
慢性骨髄性白血病など(BCR-ABL融合遺伝子)
- 2) 治療薬に効果はあるか
HER2、RAS、EGFR、BRAF 遺伝子など
- 3) 副作用の出現しやすいか
イリノテカン使用時 UGT1A1 遺伝子変異がないか

次回は当院での個別化治療の実際を掲載します。

参考・引用 がん情報サービス 癌医療における遺伝子検査 もっと詳しく

(文責) がん化学療法看護認定看護師 佐藤 絵美